

「未来を創造し、社会に貢献する人材の育成」

2019年度 柳津町立会津柳津学園中学校

学校だより

令和元年5月10日(金)発行 第 5 号 発行責任者:高橋 弘悦

10年先の明るい夢を語れる人になろう

前号でもお知らせしましたが、4月26日、株式会社「おくや」代表取締役の松崎 健太郎さんをお招きして職業講話を行いました。

松崎さんは、現在現在43歳。会津農林高等学校 食品加工科を卒業後、スパリゾートハワイアンズに就職。その後退職して東京に出るも、会津が忘れられずに帰郷。20歳で結婚、小学校からの夢であった「社長になる」の夢を叶えるべく、

21歳で「おく屋」を創業。その後、「赤べこ屋」、喜多方のセレクトショップ「スター☆ワクチン」などを手がけますが、33歳で、このままでいいのかと、経営指針を作り、「株式会社おくや」法人化し、現在に至っています。

現在では、スーパーでよく見かける豆菓子を中心に手広くビジネスを展開し、海外にも進出する勢いのある会社を運営されています。こだわりは「会津産」。地域を盛り上げようと頑張る姿に、頼もしさを感じます。

「会津に資源はありますか？」という問いに「何もない」と答えた松崎さん。それに対して「かわいそうですねあ〜会津には、良い土があり、良い水があり、更に歴史があり、観光地もあり、それを、何もないと言ってしまえばどこに居ても何もないですわ〜」といわれたことが転機になったとのこと。「何もない」といってしまえばその先には進めませんが、視点を変えれば、この柳津にも隠れた資源がいっぱい眠っているのかもしれない



れません。

10年後を見据えれば、今地方がやるべき事は沢山あります。空き家、空き農地、空き店舗…全てが資源に変わる可能性もあります。「高齢化」が問題になっていますが、逆に考えれば、そのお客さんの層は拡大マーケット…。

松崎さんは、最後に「世界は小さくなっている。アジア人としての生き方、福島人として、日本に世界に何ができるだろうか、、、？その為にも、地域の資源をしっかり把握し再生させたり、守る仕組みを作る必要がある。みんなも「資源はありますか？」と聞かれた時、「これです」と堂々と応えられる人になろう。」と話を締めくくられました。

会津を活性化し、もり立てていこうとするこのような先輩がいることは、ある意味誇りです。生徒の皆さんにも、この地域をどうするか、そのためにこの先十年をどう生きるかという視点で今後のの生き方を考えてもらいたいと思います。

令和でも活躍

夏休みや冬休みにも匹敵する大型連休も大きな事故なく過ごすことができました。この間、改元もなされ、新しい時代「令和」となりましたが、早速各種大会で多くの受賞者が出ました。来週には全会津陸上競技大会が開催されます。さらなる活躍を期待します。



【連休中の受賞者】

金子 玄 4月28日 全会津中学生バドミントン大会 3位

佐藤 玲華・土橋 咲希ペア

4月28日 春季全会津テニス大会 U-17 1位

高田 瑞貴 4月28日 春季全会津テニス大会 研修 3位

女子バレー部 5月 3日 バンダイスポーツ杯バレーボール大会 1位

新井田 夏希 5月 3日 バンダイスポーツ杯バレーボール大会 最優秀選手賞

野球部 5月 3日 バンダイスポーツ杯会津地区中学野球交流大会 1位

(本郷中学校との合同チーム)

種まきを行いました

9日、1年生がロードフラワーに用いるマリーゴールドの種まきを行いました。指導は、西山地区の鹿野 隆さん。

鹿野さんは長年、ボランティアでロードフラワー運動を続けておられる方で、苗おこしをご協力いただきます。

今回種まきしたマリーゴールドは1,500鉢。限られた時間でしたが、1年生は手際よく作業を進め、時間内に終了することができました。

植え付けは7月の予定です。今年は西山地区の道路に加え、役場前にも花壇をつくる予定です。花いっぱいの柳津町になりそうです。

